九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Suggestion of added value by bevacizumab to chemotherapy in patients with unresectable or recurrent small bowel cancer

大嶋, 琴絵

https://hdl.handle.net/2324/4474896

出版情報：Kyushu University, 2020, 博士（医学）, 論文博士
バージョン：
権利関係：Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (3)

氏　　名：大嶋 琴絵

論 文 名：Suggestion of added value by bevacizumab to chemotherapy in patients with unresectable or recurrent small bowel cancer
（切除不能再発小腸癌患者に対する化学療法におけるベバシズマブの上乗せ効果）

区　　分：乙

論 文 内 容 の 要 旨

進行小腸癌に対する標準的な化学療法は未だ確立されておらず、分子標的治療を併用した化学療法の有効性と安全性についても十分な検証がなされていない。そこで、進行小腸癌における抗 VEGF-A 抗体薬であるベバシズマブ併用化学療法の有効性と安全性について検討を行った。
2008 年 1 月から 2016 年 12 月に進行小腸癌に対し化学療法が施行された 33 例の患者について後方視的検討を行った。
結果は、年齢中央値は 65 歳。原発巣は十二指腸 21 例、ファーター膨大部 3 例、空腸 7 例、回腸 1 例であった。一次化学療法は FOLFOX 療法(フルオロウラシル、オキサリプラチン)、、CAPOX 療法（カペシタビン、オキサリプラチン）、S-1+シスプラチン療法が各々13 例、1 例、4 例に施行された。ベバシズマブ併用化学療法は 4 例（12%）（FOLFOX 併用 1 例、CAPOX 併用 3 例）で施行された。奏効率は 25%、無増悪生存期間中央値は 6.0 カ月であった。全生存期間中央値は 13.0 カ月であった。ベバシズマブ併用化学療法は、治療ラインに関わらず 33 例のうち 9 例（27%）で施行された。ベバシズマブ併用の化学療法を受けた患者、ベバシズマブ非併用の化学療法を受けた患者の全生存期間中央値はそれぞれ 21.9 カ月、11.4 カ月(p=0.179)であった。予期せぬ重篤な有害事象は認めなかった。
本研究の結果、進行小腸癌に対し、ベバシズマブ併用の化学療法が予後の改善に寄与する可能性があることが示された。